

1	審議会名	平成27年度第3回西部公民館運営審議会
2	日時	平成28年3月17日(木)午後6時30分から午後8時30分まで
3	会場	上田市西部公民館2階講義室
4	出席者	田村保会長、小岩井礼子副会長、荻久保美智子委員、小市武志委員、 瀧沢宏一委員
5	市側出席者	水野館長、中村次長、小山主査、柳澤社会教育指導員、清水社会教育指導員
6	公開・非公開等の別	公開
7	傍聴者	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成28年4月17日
協 議 事 項 等		
1	開 会 (事務局)	
2	あいさつ (会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州型コミュニティスクールについて、各方面で進められている。長野県教育委員会の方針では、平成29年度に100パーセント設置することが目標となっている。上田市では、28年度中に100パーセントの設置を目標としている。</li> <li>・小中学校では、組織づくりに困っている。西小学校では、今年度の県の学社連携フォーラムで発表したとのことだが、問題はコーディネーターだと聞いている。学校、公民館、地域住民のそれぞれで、コーディネーターを務めるとのこと。</li> <li>・県は、10年先を見越して、地域からコーディネーターを育てて出すことを念頭に置いている。公民館も学校も、職員が3年程度で交替してしまうことが理由。理想的なのは、地域住民がコーディネーターを務め、その方を公民館がバックアップするスタイルだと思う。</li> <li>・西小型のコミュニティスクールを目指していくのがよいと思う。</li> </ul>
3	審議事項	<p>(1) 平成27年度事業実績見込みについて</p> <p>(2) 平成27年度青少年育成関係の主な事業実績と課題について</p> <p>(事務局)一括説明</p> <p>(委員)3月2日(水)の人権同和教育指導者研修会は、「同和問題～差別の実態を学ぶ～」というテーマで開催された。一皮むけた研修会で非常によかった。講師が、今の現状をきちんと説明していただき、わかりやすかった。困っている人、悩んでいる人がたくさんいることがよくわかった。帰りがけ、多くの方が、よかったと言っている声を聞いた。いい講師を連れてきていただいた。</p> <p>(委員)差別事象は姿を変えてきている。一見、表に出てこない。叩かれるから。しかし、表に出てこないところで、生活弱者、子ども、高齢者に対する差別となって、現れてきている。このような面は、意識していく必要がある。</p> <p>(委員)2月21日(土)の上小・東御公民館関係者研修会の中沢純一さんの話も大変参考になった。人権に関わっている。看取りの話は心に残った。家で最期を迎えたいという気持ちは多くの方が持っている。ただ、独居の方は多い。みんなで助け合おうと言うが、年配の方はこういうことを言ってもわかってくれるが、若い方はこういうことはわかってくれない。</p> <p>(委員)自分が結婚したばかりのころ、主人の母親の介護を一人で7年間やった。認知症だった。誰にも相談できなかった。父親からは、誰にも言ってくれるな、と</p>

言われた。だから、誰にも話ができなかった。当時は民生員に声をかけてもらったり、ずいぶん助けてもらった。在宅介護者のための介護慰労金を紹介してもらいありがたかった。若かったから、なんとかできたと思う。

(委員) 地域の話題として、介護、認知症が一つのテーマとしてある。

(委員) 西部公民館では、いろいろな事業に取り組んでいるが、世代を超えた交流の事業がちょっと少ないのでは。

(委員) ペタンク大会が、世代間交流をねらいとしていると聞いている。

(委員) 地域の活動に、若い人の参加者は少ない。三十代後半になり、少しやる気になってくれる人もいる。ペタンクは、高齢者が出てくれるが、若い人は参加する人と参加しない人が極端に分かれてしまう。参加の誘いをかけても、門前払いのこともたびたびある。不参加の理由に仕事をあげる。自分の場合は自営業で無休だから、仕事を前倒しして、休みを作ってやっている。若い人たちは、自分の家族だけで固まってしまっている。

(委員) 若い人の参加は課題である。小さい子供の「公園デビュー」という言葉があるが、これからは若い人たちの「地域デビュー」が必要になってくる。ターゲットは高校生や大学生。その層の開拓をやっていく、アクションをかける必要がある。高校生や大学生が、地域の活動へ参加する経験を持ってもらいたい。

(委員) 高校生や大学生に声をかけると、親からストップがかかることがある。

(委員) 今までで、三本の柱が出てきている。介護や認知症、世代を超えた交流、高校生や大学生への働きかけ、である。

### (3) 平成 28 年度西部公民館事業の主な計画(案)と課題

(事務局) 一括説明

(委員) 今日から春休みで、三人の子どもたちが、ゆうすげの里に来ていた。

(委員) 高齢者も、自然の中に連れていきたい。ゆうすげの里に来てもらう工夫をしてほしい。

(委員) 西小の校長は、何かあれば西部公民館に行けるという安心感があるが、今後新しくなると遠くなってしまふことが懸念されると言っていた。現公民館の利用について、今後どうするのか。

(事務局) 公共施設マネジメントでは、新しい施設を造ったら、これまでの施設は処分して土地を売却するという方針である。

(委員) 公共施設のあり方についても、行政の都合ではなく、暮らしている人の都合を優先したい。秋和の工場跡地は、不動産業者が安く買い上げ、その土地を売って、パチンコ屋になってしまった。現公民館の処分についても、どうしたら地域に還元できるか、という視点をもって進めてもらいたい。財政的な面、確かにあると思うが、ポスト真田丸をどうするか、お金をどこに使っているのか?、みんなが関心を持っている。

(委員) 放課後学習室についてお聞きしたい。1 回、どれぐらいの人数で行われているのか。

(委員) 指導者スタッフは 3~4 人、児童は 20 人程である。始まりは、できない子供たちに力をつけさせたい、ということだった。しかし、子供たちが、残されて勉強をしている、という感覚になってしまうようになり、自分で学びたいことをやる時間、という風に位置づけ直した。そうしたら、学習室に参加する子供が増えてきた。

(委員) 学校から配布されて家へ持って帰った物を、そのまま次の日学校へ持ってきてしまう子供もいる。親との時間がそれだけ少ないということであり、家庭教育の問題もある。家庭教育については、国も県もいろいろやってきているが、成功したためしがない。

(委員) クラブ活動については、運動系のクラブを作りたいが、指導してくれる若手がないという悩みがあるとのこと。

(委員) 運動はいいことだと思う。今の子どもはゲームばかりやっている。

(委員) ゲームをやる子、やらない子、はっきり分かれる。

(委員) 夜中まで一晩中ゲームをやっている子供がいた。親は叱るが、子供はきかない。

(委員) おもしろいことに夢中になることは必要なこと。勉強のおもしろさに触れられればそっちに夢中になるのではないか。何に夢中になるか、ということが大切なことである。

西小と西部公民館は、ひとつのモデル的な活動である。運営だけでなく、連携の組織づくりが必要な段階である。

#### (4) 西部公民館施設整備事業の概要

(事務局) 一括説明

#### 4 その他

(会長) 今は、公民館に新しい光があたっている

一つは、地域の課題をめぐること。

地域協議会が問題になっている。地域協議会の活動が、地域に見えてこない。

そういう状況の地域協議会には、どこが働きかけるのか。公民館ではないか。

また、地域のことを拾い上げる一方で、市の職員が地域へ出ていくことも考えられる。入って行って、上田市をどうするか、作っていかうとするか、市民と議論することも大切だ。そういう場面の先端にあるのが、公民館職員ではないか。

もう一つは、主権者教育のこと。

コミュニティスクールの後は、主権者教育が社会教育のテーマになる。

若い人が、地域や国のことを考える教育が求められている、高校では、行われ始めている。小学校や中学校は、主権者教育の場面でも、地域との接点は公民館である。

若い人たちにいかに地域に関心をもってもらうか。そこを公民館がお膳立てすること必要である。そういう役割が求められる。

#### 5 閉 会 (事務局)